

D o D i s t u r b ! 地獄に奴等がやって来た

登場人物

あきら

地獄に落ちた少女

作蔵

地獄に落ちた爺さん

ジヨニー

地獄に落ちたホスト

剛史

地獄に落ちた自衛隊員

地獄商事

社長

秘書

営業一課課長

営業二課課長

社員A

社員B

OL

男 ?

男の召し使い。らしい

その他地獄商事の社員達

朝のプラットホーム。通勤通学の人達が並ぶ
その先頭にあきら。

あきら 六時三十二分 上りのホームの三両目。いつもの場所に、いつもと同じように駆け込んできて急行を待つ姿。口から吐き出される白い息。学生服の乾いた冬の光を吸い取るような黒い履き潰されかけのスニーカー。いつも同じスポーツバック。線路越しの鼓動。あたしからの鼓動。向こうからの鼓動。線路の伝える鼓動。迎える時間。この時間の終焉。あたしの良く知るあの人と、あの人が全く知らないあたしとの時間の終わり。冬の朝の光に包まれた光景からあたしを連れ去りに来た電車……あゝ、今日が合った……。

電車の急ブレーキの音

横たわっているあきら。その周りに座っている作蔵・ジヨニー・剛史。

ジヨニー まだ着かないのか？

作蔵 そのようじゃのよ。

剛史 あれから（時計を見ている）……。

ジヨニー 時計見ても無駄だぜ。止まったままだ。

作蔵 しかし、どうしてこんなことになったのかのう……。

ジヨニー どうしてって、なっちまったものはしかたねえじゃないか。

剛史 しかし、彼女起きませぬね。

作蔵 最後に運ばれてきたからのう。

剛史 ……しかし、気が付いた時シヨックでしょうね。

ジヨニー だるうな、俺達だつてそうだったんだから。でもよ、なんでお前そんなに気にするんだ？ 本物の女子高生を間近で見て、気がでないってやつか？

作蔵 フォッフオッフオツ……若いというのはええことじゃな。

剛史 冗談じゃない、自分はただ……。大体、そういうことはあなたの方が……。

ジヨニー それこそ冗談じゃない、こんシヨンベン臭いガキなんか相手にしてどうすんだ

よ。そもそも、俺は……。

あきら 誰がシヨンベン臭いって？

作蔵 おや、起きたようじゃのよ。

あきら そんなこと言うなんて十年はやいんじや、このチキン野郎……。

シヨニー 寝言だな。

作蔵 寝言じゃな。

剛史 どっちにしてもそろそろ起こしてあげた方がいいと自分は思うのですが。

シヨニー 勝手にしな。

作蔵 確かに、着く前に起こしておいた方がいいじゃろうな。説明もしてあげねばならんだろうし。

剛史 はっでは、自分が……もしもし。

あきら (謎の寝言)……ハッ (剛史を殴る) キャー！ あんた誰よ？

剛史 いや、自分は……。

あきら 寄らないで、このテメ○の間に攻撃！

作蔵 ホッホッホッホ……元気のいいお嬢ちゃんじゃのよ。

シヨニー 起きた途端大騒ぎかよ。まったくガキってのは……。

あきら ガキですって！ あんたねえ、初対面の相手をつかまえて……ここはどこ？ それにあんたたち……これってもしかして、拉

致？ このままはあたしを○×して、△□した挙げ句、売り飛ばすつもりね。古川橋のロータリーは避けてたのに、どうして？

ダルマはイヤー！

作蔵 いきなり賑やかになったのう、やっぱり若いっていうのはいいことじゃな。

剛史 落ち着いてください、じつは……。

あきら だから、寄るんじゃねー(蹴り)！ あたしが大人しく捕まってると思ったら大間違いなんだから！

あきら 手近な扉を開ける。すると水の音。

あきら ここは？

シヨニー ここから出ようたって無駄だぜ。その川に落ちたらどこに行くかそれこそわからねえからな。

あきら 何この光景？ ここは一体どこなの？

作蔵 船の上じゃよ。

あきら ふね？

ジヨニー そうだよ。あの世行き。のな。

あきら あの世？

剛史 そうです。自分達は死んだのであります！

あきら ええええええ！？

通勤途中の社員A。新聞を読んでいる。

社員B おはよう。

社員A おはよう。

社員B 何か、面白いこと載ってる？

社員A 列車の人身事故だってよ。それも現役女子高生だけ。それと、血なまぐさい事件の数々。全く世の中は物騒だってこと。

社員B まあ仕方ないさ。人類五十億。毎日世界のどこかで事件が起こるようになってるんだから。

社員A 出来てるって……まあ、そのとおりなんだが。

社員B あまり愚痴ってないで。今日も頑張ろうぜ。俺達が働かなきゃ、世界は大変なことになるんだからな。

社員A ああ……。

再び船の上。

ジヨニー ということだ。俺達は死んで、今からあの世ってところに行くんだよ。

あきら どうしてそんなことを？

剛史 自分達を乗せた人が説明してくれたであります。

作蔵 お嬢ちゃんはお出港直前に運び込まれたからのう。

あきら でも、死んだなんて証拠は……。

ジヨニー 証拠証拠って女みたい……。

あきら 女よ！

作蔵 まあ、信じられないのも無理はない、わしも最初は信じられなかった。

剛史 ポケットの中に書類入ってありませんか？

あきら 書類？ (カサゴソ……) これのこと？

ジヨニー 開けてみな あんたの死因が書いてあるから

あきら ……ホームからの転落による轢死？

剛史 轢かれて死んだということではありません。

作蔵 自殺か？ 若いのに人生を無駄に使うなんて……。

あきら 違うわよ、ホームで電車待ってたら……。

ジヨニー おおかた、向かいのホームにでも気を取られてて足を踏み外したってとこじゃねえのか？

あきら どうしてそのことを？ はっ……。

ジヨニー ふーん、凶星か。

あきら さっきから失礼ね、だいたい、あたしが死んでいるってことは、あんた達だって死んでるってことじゃない！

作蔵 ああ、死んでおるよ。

ジヨニー 同じく。

剛史 自分でもあります。

あきら 何それ、新手の冗談？

ジヨニー まだ信じられない様だな

作蔵 普通はそうじゃろう。

剛史 どうやったら信じてもらえるでありますか？

あきら 信じるって、自分が死んだってことどうやって信じたらいいのよ？ どうしてあたしが死ななきゃいけないのよ！

作蔵 信じられないというよりも、信じたくないんじゃないの。

あきら だって、あたし明日は日曜日で裕子と買い物に行く約束だっしてたり、冬休みにみんなでスキーに行くんだし、それに……

ジヨニー でも、死んでしまったんだ。お前も俺達も。

あきら だから

ジヨニー 現実的な話じゃないが、現実なんだ。俺達は死んだ。そして、これからどうなるかを聞きに行くんだ。

あきら ……どうなるかって？

作蔵 決まっておるじゃろう？ 極楽へ行くか、地獄に行くかじゃよ。

暗転

本を読んでいる男がいる

男 (朗読) 今日は大漁だった。さすがデーブクランク。いい仕事をしてくれる。釣った魚はすべて放してやる。『置いてけ堀』の怪談をルーツに持つキャッチアンドリリースの精神だ。太公望と文王の出会いという説も有るが、僕にして見れば盾唾物だ。なぜなら、今日も誰も来なかったからだ。いや、今日というのはおかしい。というのも、ここには時間の概念がない。一体、ここに来てどれくらい経ったのだろう。ここにはたった一つを覗いて全てのものがある。そのたった一つをこうして僕は待ち続けている。

? またそんな本を読んで……。

男 (本に目を向けたまま) ああ、いたのか？

? 『ああ、いたのか?』、ではありませんよ。……お茶の用意が出来ました。

男 茶菓子は？

? ご要望通りにスコーンを焼き増した。

男 サワークリームと……。

? マーメイドも用意しております。どうぞ。

男 うん。……これ呼んだら行く。

? (時計を取り出し) あと五分もしたら、お茶が出過ぎて渋くなりますよ。

男 ……三分でいくよ。

? では、向こうで

? 立ち去る。

男 ……そのたった一つとは、夜だ。太陽はひたすら空の上で円を描き、月も星もその姿を現さない。だから何日経ったのかも分からない。それでもひたすら僕は夜を待つ。ぐるぐると回る太陽の下で、ぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐるぐる……。

? (声) お茶さめてしまいますよ！

男 ……うん

男退場

地獄商事営業二課の朝

二課課長（以下二課） 諸君 おはよー！ 今日もすがすがしい朝だ。こういっのを地獄晴れというのかねえ。今日も元氣だ。仕事が楽しい！ そんな気分で今日も一日頑張って行こう！ なあ諸君……って誰もいない。もうすぐ始業時間だと言っのに、彼らはまだ来ていないの言っのか？ ……とか言っているうちに始業時間だ。こんなことだから我が営業二課は『地獄商事』の恥部だとか●○だとか言われるんだ。今日こそはガツンとやってやらないと……。

○L登場

○L おはようございます。

二課 ああ、武藤君おはよう。 ……あの……。

○L なんですか？

二課 今、何時だと思え。

○L 九時十五分。課長、時計も持っていないんですか？

二課 いやそういうことじゃなくて……。君が来たのは何時かと……。

○L 二分前です。

二課 それって遅刻じゃあ……。

○L あたし、低血圧で朝辛いんです。

二課 しかしねえ、社会人としての責任とか……。

○L 課長にあたしの辛さが分かるんですか？ 朝、ゲロはきたくなるくらいの気分で起きて、満員電車で揺られて、時には痴漢にあたり……それでもあたし会社に来ているんですから、十分やそこいらのこと見逃してくれていいんじゃないですか？

二課 十分じゃなくて十五分……。

○L 何か？

二課 いや何も……。

OL なら話は終わりですね（立ち去ろうとする）。
二課 いや、まだ……（捕まえる）

OL、二課をぼこぼこにする。

OL 許可なく触るのはセクハラですよ。

二課 ……はい すみません。

社員A おはようございます。

社員B あれ 課長どうしたの？

OL 課長ったら、セクハラするからお仕置きしたの。

社員A あーあ、そいつはいけないなあ。

社員B 人事に知れたら大騒ぎだ。

二課 ええ？

OL 『課長ったら私に毎日残業させて、人気の無いオフィスで……（色々）』

社員A 課長 確か家のローン残ってましたよね。

社員B たしか百二十年。

OL 息子さんも小学校に上がったばかり。

部下達 ……クビになった日には、一家心中かなあ……。

二課 そっそんな……。頼む、人事には……。

社員 いいですよ黙ってても、その代わり……。

二課 その代わり？

社員A ……午後ティー買ってきてください。

社員B 俺 のほほん茶。

OL ティオのレモン。

二課 ……それで勘弁してくれるなら（手を出す）。

部下達？

二課 お金……。

社員A 人事課って三階だっけ？

二課 ……行ってきます。

社員B 二秒で行ってこいよ！

課長退場

社員B いじめすぎたかなあ。

OL 遅刻ごまかせたんだし、いいんじゃない？

社員A しかし、こんなのでいいのかねえ。

社員B 何を今更、一課ならともかく、ここに移された以上はてきとーにやっつてようぜ。

OL そうそう、頑張ったところで給料増えるでなし。仕事が増えるだけよ。

社員A 仕事といえ、今日四人ほど来るらしいな。

社員B 朝刊の件か？

社員A ああ、それだ。まあどうせ一課の仕事だろうな。

OL よね、さあ、今日も適当にやりましょ！

社員A・B だな。

二課 (声) うわー！

社員B なんだ？

OL 課長の事だから、階段でこけたのよ。きつと。

社員A 一応見に行くか。

社員B ああ。

部下達退場

あきら達登場

あきら 矢印ここで終りね

ジヨニー (パンフを見ながら) 『矢印の執着点でお待ちください。係員の者が至急参ります』だってよ

剛史 そう言えばこっちに着いてから誰にも会っていませんね

作蔵 船もオートオートロールだったからのう。

ジヨニー オートコントロール！ で 降りたところに置いてあったのがこのパンフレットのみ サービス悪いぜ。

あきら そうよね。アフターサービスって奴？

ジヨニー ン？ 何だかんだ言って、死んだの納得したようだな

あきら ここまで来て新手のテーマパークだって言われても信じられないわよ。こうなったら 天国に昇って幸せに生きてやるんだか

ら

ジヨニー もう死んでるって。それに天国とは限らないだろう？

あきら 決まってるもん！ あたし何も悪い事なんてしていないんだから

ジヨニー あんたなあ……。

あきら 気安く『あんた』何て呼ばないですよ。あたしには『あきら』って名前があるんだから

作蔵 ほう、あきらちゃんか。わしは作蔵 見ての通りの爺じゃ

ジヨニー 本当に見たままだな。俺はジヨニー。

あきら じよにい？

ジヨニー 源氏名だ。ホストをしていた。

あきら ふーん

剛史 自分は剛史であります。自衛官でした。

あきら 自衛官ねえ……ねえ 三人はどうして死んだの？

作蔵 わしは 老衰じゃ。天寿を全うしたってやつじゃな

ジヨニー 俺は客の一人に刺されて……。

あきら 刺された？

ジヨニー 金の切れ目が縁の切れ目ってね。いわゆる『痴情のもつれ』ってやつな

剛史 自分は 演習中に隣の友人の銃が暴発して頭が吹き飛びました

あきら ……(想像している)そう。つまり、あんた(ジヨニー)以外は天国行けそうなのね

ジヨニー どうしてだよ！

あきらら だってどう見たってあんた悪人じゃない！

作蔵 うん、女を食い物にする魔物じゃな

ジヨニー 爺まで！

剛史 男の風上にも置けないであります！

ジヨニー お前まで……何が悪いんだよ、これだって仕事じゃねえかよ、向こうが金を払う、俺達はその分サービスする、そのどこ

が悪い？

あきらら 縁を切ったあんたが悪い。

ジヨニー 金が無いのにサービスできるか！

剛史 あっ誰か来たようです。

社員A・B登場

社員A ったく、今日が俺達の番だなんて忘れてたな

社員B ああ、一課の連中も教えてくればいいのに。

社員A あっあの制服って……。

社員B 朝刊に載ってたアレだな。

あきらら あれがあのお世からのお迎え？

ジヨニー じゃないのか？

あきらら あたしにはどう見ても仕事中のサラリーマンにしか見えなないんだけど。

剛史 自分でもあります。

作蔵 連中も死んだ奴等だとか……。

社員A あっお待たせしました、私どもこういう者です。

社員A・B名刺を出す。

あきらら 地獄商事営業部二課……。

社員A 咲坂です。

あきら あたしだってよ、説明しなさいよ！

咲坂 ……だってよ、お前から説明してやれよ。

桃成 ああ……（書類を取り出し）まずあなた、有山あきらさん。あなたは、線路のホームから落ちて死にましたね。だから地獄行き

あきら それは事故で……。

桃成 あなたが落ちた事で、列車が止まりたくさんの人に迷惑をかけました。一人一人に対する迷惑を累積させると、地獄行きの分になつたので地獄行きです。

あきら そんなのあり？

桃成 次にあなた、山田五作。

あきら 五作？

桃成 あれ、違いましたか？ 五作さん。

ジヨニー 俺をその名で呼ぶな！ 俺はジヨニーだ！

あきら 五作って、そんな名前の癖にジヨニーだなんて……。

ジヨニー うるさい、本名は嫌いなんだよ！

桃成 ホスト倶楽部の客との痴情の纏れで刺されて死亡。文句無し地獄行き。

ジヨニー だから、あれは……。

桃成 あなた上原剛史、自衛隊演習中に友人の小銃の暴発によって死亡。よって地獄行き。

剛史 どうしてでありますか？

桃成 あなたの友人徳田氏は、普段からの善行により天国行きが決まっていた。しかし、貴方を殺してしまった事によってカルマが付き、更なる善行を必要としました。彼に迷惑をかけたことで地獄行き。

剛史 そんな……。

作蔵 わしはどうなる？ わしはこの歳までに人から後ろ指指されずに生きてきたつもりじゃ、さして一人静かに死んだんじや。それでも地獄行きか？

桃成 伊集院作蔵さん、ですな？

ジヨニー ずいぶん立派な名前だな。

あきら あんたとは大違い。

ジヨニー うるせえ。

桃成 あなたはご両親がまだ健在ですね？

作蔵 ああ……もじゃ！

桃成 そのとおりです。親より早く死んだ者は地獄行きです

ジヨニー 両親って爺あんたいくつだよ？

作蔵 八十八歳じゃ。

剛史 ご両親は？

作蔵 二人とも110歳じゃあああ。

三人 なんてこったい。

咲坂 ……というわけで、皆さん地獄行きです。納得いただけましたか？

四人 ……納得できるかあ！

あきら 達咲坂達をボコにする

あきら みんな逃げるわよ！

あきら 達退場

咲坂 ……うう。連中なんて力だ。本当に死んだばかりか？

桃成 とりあえず緊急事態だ。本社に連絡しないと……。

咲坂 達退場

あきら 達走り込んでくる

あきら ハアハアハア……どうやら逃げ切ったようね。

ジヨニー で、逃げてどうすんだ？

あきら あっ考えてなかった……。

ジヨニー だるうな 俺達もつられて逃げてきてしまったが……。

剛史 自分達 これからどうなるのでしょうか？

ジヨニー 知るかよ。

あきら さっきの連中 追ってくるわよね

剛史 捕まったら暴行及び逃亡罪で銃殺であります

ジヨニー 何時の時代の話だ？ まあ こうなったら逃げ回るしかないよな まあ 爺さん……ん？

作蔵の様子がおかしい。

あきら お爺ちゃん どうしたの？

作蔵 ……よし子さん 晩御飯はまだですかのお？

あきら え？

作蔵 晩御飯じゃ。

あきら ご飯どころの騒ぎじゃないわよ。それにあたしはあきら！

ジヨニー おいおい爺さん大丈夫か？

作蔵 おお一郎 お前の嫁はわしに飯を食わせてくれないんじや わしをうえじにさせるつもりなんじやああああああ

あきら どうしたのよ、この人？

ジヨニー 老人ボケか？ さっきまでしっかりしてたのに……。

作蔵 (剛史を見て) おーおー浩次ではないか おじいちゃんがお小遣いをやるう。お母さんには内緒じやぞ (何か渡す) ……。

剛史 ……自分が思うに、作蔵さんは地獄行きが決まったショックでボケが進行されたのではないのでしょうか？

ジヨニー なるほどなあ……かわいそうって言ったらかわいそうな話だ。

作蔵 一郎や、婆さんはどこに行ったかのお？

ジヨニー あんたの嫁なんか知らないよ、それに俺は一郎じゃなくて

あきら 五作

ジヨニー その名前で呼ぶなー！

作蔵 (適当に何かしている)

剛史 で、自分達はどうするんですか？

あきら 少しはそっちも考えてよ！ ……もう、どうしてこんなことになったのよ？

ジヨニー 死んだからだろう？

あきら そうじゃなくて、地獄行きのことよ。

剛史 そうですね、自分達が地獄行きだなんて…。

ジヨニー それに爺さんはボケちまうし。

作蔵 わしはボケとらん！ その証拠に、『いや、最近暑くなりましたねー』、ほらネタフリじゃあ、ほら、ボケる。

あきら (無視して) 大体、何て理屈なの地獄行きの理由、考えた奴の顔が見たいわ！

ジヨニー 考えた奴、ねえ、誰だそいつ？

剛史 普通判決を下すのは閻魔様では？

あきら それよ！

ジヨニー 何だよ？

あきら こうなったら直談判よ、閻魔様に文句を言いに行くのよ。

剛史 閻魔様に？

ジヨニー そんな無茶な。

あきら どうせ後には引けないし、文句の一つも言わなきゃ気が済まないわ。

ジヨニー けど、どうやって？ 場所分かるのか？

あきら これよ。

剛史 さっきのパンフ！

あきら 最後に製作元として『地獄商事』の住所が載っているのよ。ここに行けば最低でも閻魔様の居場所が分かるはず！

ジヨニー 確かになあ、しかし、そう簡単に行くか？

あきら 別に嫌なら行かなくてもいいわよ、あたしだけでも行くから。

剛史 自分も行きます！ やっぱり納得行きません。

ジヨニー ……仕方ねえなあ、ここにいっても捕まるのを待っただけだからな、俺もついて行ってやるぜ。

あきら 偉そうに…：まあいいわ、じゃあ早速出発よ！

剛史 ほら作蔵さん行きますよ。

作蔵 おお！ 煉瓦じゃ黄色い煉瓦の道が見える！

ジヨニー なんだ今度は？

あきら 黄色い煉瓦の道って言ったら 『オズの魔法使い』よ。自分の町に帰るために 黄色い煉瓦の道をオズの魔法使いに会いに行くの。

ジヨニー ふーん。

剛史 ちょっとだけ今の状況と似てますね

あきら よーし、黄色い煉瓦の道を通って閻魔様に文句を言いに行くわよ！

一同 おう！

音楽 歌って踊っても可。

声 何か音楽が聞こえたぞ。あっちだ！

あきら バカやっている場合じゃなかったわね。行くわよ。

あきら達退場

営業二課

二課 何だって、逃げられた！ 君達は何をしてくれたんだ！

咲坂 と言われてもな

桃成 あいつら亡者の割には強くて……。

二課 言い訳はいいんです。あなた方はそれでも地獄商事のサラリーオーガ（会社員ならぬ会社鬼の意味）ですか？ この給料泥棒！

咲坂 何だと？

桃成 もう一度言ってみろコラ。

二課 ……言い過ぎましたすみません

OL でもどうするの？ 逃がしたままって訳にはいかないだし。

咲坂 とりあえず、あそこからここまでの交通機関、そして各地獄には検問があるわけだからいずれ捕まりますよ。

桃成 そうそう。

二課 そういうことじゃなくて、この事が外に知れたら……。
声 知られたら、何だって？

営業一課課長登場

二課 きっ君は？

咲坂 地獄商事営業一課課長

桃成 須磨耕作（女優の場合は適当に変更）！

OL 地獄の有力鬼族の家に生まれ、ハーバード大学地獄校を主席で卒業し、その若さで第一戦の営業一課課長に就任。もつとも重役に近いと言われている須磨課長がどうしてここ営業一課に？

須磨 キャラクターの説明ありがとう。いや、ちょっと通りかかったただけなんだ。何の話をしていただい？

二課 いや、何でも……。

須磨 そうか……脱走者とは大変だねえ。

二課 そうなんだ……ってどうしてそのことを？

須磨 声が廊下まで響いていたよ。いたのが私一人でよかったね。

二課 須磨君、頼む。この事は内密に……。

須磨 不正は私の主義に反するのでね。それにもう遅い。新手が来たよ。

声 そのとおりですね。

秘書登場

二課 そんな……。

咲坂 社長第一秘書 柳美麗！

桃成 つねに社長と行動を共にしていると言う第一秘書がここにいて言うことは……まさか……。

OL まさかねえ……。

秘書 そのまさかですね。社長

紗幕の向こうに社長登場

二課 社長！

社員達ひれ伏す。

社長 不始末のようだな

二課 はっ……でも聞いてください、これには……。

社長 言い訳無用！

二課 ひい！

社長 お前達にはしかるべき処分を……と言いたいところだが、それよりも我が社の信用を取り戻すが先決。処分はそれからだ。

一同 ははあ！

社長 咲坂 桃成。

咲坂・桃成 はい！

社長 脱走した魂はお前達が直接出向き、連れ戻せ。各地獄の管理者には話を付けておく。その代わりに、決して脱走者が出たと言つことが表に出ない様にな。そして、連れて帰るまでもどる場所はないと思え！

咲坂・桃成 はい！

社長 そして須磨、この事は他言無用だ。

須磨 はい、そのように。

社長 後、脱走者の件については二課全体の責任とする。全員で脱走者の追跡、捕獲に取り掛かれ。以上だ。
一同 ははあー！

社長・秘書退場

須磨 二課の仕事は私のところで預かっておくよ。せいぜい頑張って、一刻も早く脱走者を捕まえておくれよ。

須磨退場

咲坂 嫌みな奴

二課 というわけだ。二人は早速脱走者たちの足取りを追ってくれ。私達はここでバックアップ体勢を取っておく。

OL 達って、私ですか？

桃成 当たり前だろう。連帯責任なんだから。

二課 場合によっては残業になるな。

OL ええ、私今日はHIDEのファーストライブ in 地獄なのに！

二課 とにかく選択権はないんだ。皆かかってくれ！

一同退場

再び男が本を読んでいる

男 酒場のテレビの中で声が叫ぶ 『わが弟は何故死んだのか？』 『坊やだからさ』 男はグラスをくゆらしながら言った。シニカルな

笑みが男の口元に浮かぶ。テレビの中では相変わらずよき弟でありよき部下である男を失った将軍が演説を続けている。『何故

弟は死んだのか？』 『だから、坊ややからやっちゅうねん！』 …… 男はテレビを見ながらツッコミを入れるタイプだった。

？ 何なんですか、その本は？

？、 沢山の本を抱えながら登場。

男 これ面白いんだ。この後主人公が死んだ将軍の弟の婚約者に仇って言われるんだ。

？ はあ……頼まれていたものもってきましたよ。

男 ご苦労様

？ いえいえ、お仕事ですから。でもですね

男 何？

？ 本ばかり読んでなくて、たまには身体を動かさないとなまっちゃいますよ。

男 分かってはいるんだけどね。

? 『分かってはいるんだけどね』。そう言っているだけでは 何もしないと同じですよ。

男 その言葉も仕事の内？

? ……個人的な忠告です。

男 んじゃあ 個人的に伝えるよ。今読んでいる分終わったら考える

? はあ……で、つぎは何をしましょうか？ 新聞でも要ります？

男 新聞はいらない。世間のこと聞きたくなくて、ここにいるんだから

? そうもいかないでしょう？ 常に世界の動きには注意してないと……。

男 関係ないよ。

? 関係ないって……。

男 じゃあこうしよう、新聞読むか運動するかどっちかしかない。

? え？

男 さーで、どっちをしたらいい？

? ……好きにしてください。

? 退場

男 本を替えて(今日いつものように釣り糸を垂らしていると、どこからか一人の男が来て言った。『この真昼の国だ。だから夜は来ない』と。『なら夜中の国に夜はあるの?』と僕が尋ねると、男はただ黙ってうなずいた。男の言っていることは成る程もつともだ。ここが真昼の国ならいつだって昼間だし、その分夜だけの国が無ければ月出番が無くてバランスがとられない。

『じゃあ、黄昏時の自分以外は皆帰っちゃって、もしかしてこのまま一人っきりで世界の終りを迎えてしまうのではと不安な気持ちのまま半泣きで家へ走りかえってしまうような夕暮れの太陽の国』ってのもあるのかと僕が聞いたら、男はもう一度だけ肯いてまたどこかへと消えてしまった。男が消えてから僕は考えた。どうせなら真昼の国じゃなくて、そんな切ない光の世界にいたかったなあと。僕がこの国に来てどれくらい経つのだろう、未だにこの国には夜が来ない。

声 (?の悲鳴)

男 ん? 何かあったの?

男 本を抱えて退場

あきら達登場

剛史 やっと乾きましたね

あきら おじいちゃん 今度から出る前にちゃんと言ってよね

作蔵 よし子さん すまんのう……。

あきら よし子さんじゃないって！

ジヨニー しかし何だな 地獄だろうと出るものは出るんだな

あきら 笑っている場合じゃないわよ 時間ロスしちゃったんだから

ジヨニー 仕方ないじゃねえか 出物腫れ物所変われば品変わるだ それに 爺さんあのまま放っておけないだろう

剛史 自分達は一蓮托生であります

ジヨニー おっ自衛隊 難しいこと知っているじゃないか

あきら でも この度に足止め食うのもねえ

作蔵 食う？ 食うのか？ わしを食うのか？ 一郎 お前の嫁は人食い人種じゃ 鬼嫁じゃあ……でも わしも腹減ったのう

ジヨニー なんだかなあ……とは言うものの、俺も腹減ったな 出るもの出るって事は腹も減るって事か 何だか変な話だな

あきら あたしもお腹すいたあ

剛史 どこかで食べ物売ってないでしょうか？

ジヨニー 地獄でか？ まさかあ……。

あきら コンビニがある

一同 何い！

あきら ほら このパンフ地図が載っているの。 あいつらから逃げたのがここだから この道いけばコンビニだって！

ジヨニー なになに 『二十四時間空いています、あなたの快適な地獄ライフを保証するコンビニエンスストア、『ネーハン』？ なん

だこの名前……。

剛史 コンビニなら作蔵さんの紙おむつを売っているかもしれませぬ

作蔵 わしのおむつ？ わしのおつむは大丈夫だぞ？

ジヨニー 二重の意味でボケてるな

あきら とにかくコンビニに急ごう。 あたし、ピザまん食いたい！

一同 コンビニに着く。

ジヨニー 地上のと変わらないなあ。

剛史 ですねえ。あっ『冬の味覚フェア、血の池ソースの細めんパスタ』ですよ！

ジヨニー お前が食え。

あきら ねえねえ 皆何飲む？

剛史 あっ自分は、お茶でいいです。

ジヨニー 酒はないのか？

あきら 自分で探さないよ。

作蔵 (ふらふらと出て行こうとする)

あきら おじいちゃんどこに行くの？

作蔵 わしは家に帰らないと行けないんじや。

あきら 一人で帰れるわけ無いじゃない！ 一緒にいないと。

作蔵 わしは帰るんじや！ わしの帰りを小さな星の上で小さな花が待っているんじや 問っても小さな花じゃから わしが気を付けてやらないと風で吹き飛んでしまうんじや！

あきら 星の王子様？ 見掛けによらず文学系ね。

作蔵 飛行機乗りさん わしの身体は帰るにはちっとだけ重いんじや……(はっ)危ない！

作蔵 あきらを突き飛ばす。何かに撃たれて倒れる。

あきら おじいちゃん！

剛史 作蔵さん！

ジヨニー 爺さん！ 大丈夫か？

作蔵 お父さんごめんさない、壺を割ったのは僕です。だから鞭でぶつのはやめて……。

ジヨニー この爺さんエディプス・コンプレックスまで持っているのか ……ってそんな事言っている場合じゃない。誰だ！
声 フッフッフッフッ……。

咲坂・桃成何か銃を持って登場 コンビニの制服を着ている

あきら あんた達？

咲坂 おそらく食糧補給のためにコンビニに来ると思って正解だったな

桃成 店員に変装して待っていたのさ。

ジヨニー くっそう！

咲坂 動くなよ。死にはしないが しびれるぜ。

桃成 さっ手を上げる。

剛史 無念であります。

あきら ここまで逃げてきたのに……。

その時

客1 あのト コピー機A6の紙切れたんですけど。

咲坂 え？

客1 A6の紙です。入れてくれませんか？

咲坂 なんでそんな半端なサイズなんだよ？ B5を使え！

客1 A6じゃないと駄目なんです。

咲坂 あのなあ……今行きます。

咲坂退場

桃成 おい、咲坂！

客2 あのト いつまで待ってもレジに誰も来ないんだけど。

桃成 はあ？

客2 他にもお客いるんですよ。

桃成 仕事中だ今忙しいんだ

客2 コンビニ店員が客の相手する以外に優先すべき仕事があるんですか？ ほら 弁当暖めて！

客2に引っ張られて桃成退場

剛史 今のうちです、逃げましょう！

あきら達退場

電話での咲坂達と二課の会話

咲坂 ……というわけです。

二課 中々手強いようですね。在庫管理課にA型装備の使用許可申請を出したから 許可が下り次第使ってください。

桃成 A型装備？ いくらなんでも……。

二課 手段を選んではいられません。

咲坂 はい。

桃成 では、引き続き俺達は連中を……。

二課 健闘を祈ります。

電話を切る。

OL はい、咲坂と桃成は無限地獄から直帰となっています。それでは……(電話を切る)。課長 二人は何て？

二課 中々手強いようです。

OL 脱走は今まで何回かあったけど、こんなに手強いのは初めてですね。

二課 そうか、武藤君は初めてだったのか？

OL 課長言い方がやらしいです、殴りますよ。

二課 もう殴ってますよ。

OL これ 今日分です。一課に回してください。

二課 えっ？ こういうのは君が……。

OL セクハラ発言で訴えましようか？

二課 ……はいはい。

二課退場

OL もう、本当デリカシーないんだから。でも、そこが可愛いのよね。だから、つい苛めなくなっちゃ。

OL退場

グラスを交わしながらの秘書と須磨の会話

須磨 二課の連中が早速しくじったようだ。

秘書 耳が早いのね。

須磨 壁に耳ありって奴だ。あんたのところにも届いてるんだらう？

秘書 ええ、彼らの働きであそこのコンビニ売り上げUPしたそうよ。

須磨 連中の足取りは？ ある程度読めているんだらう？

秘書 餓鬼道を抜けて、そろそろ新しい地獄に着くところね。何故だか知らないけど、真っ直ぐこちらに向かってきているようだね。

須磨 ほう、ヤケにでもなっているのかな？

秘書 さあ、どうかしら？ 何か考えがあつてのことかも。

須磨 だとしても、せいぜい暴れてくれないとこっちの都合もあるからな。

秘書 あの人達も災難ですこと。

須磨 まあ、彼らには到底止められまい。逃げている連中が逃げている連中だけにな。

秘書 結果、事は公になり営業二課の責任問題となる。

須磨 そして、そいつらを雇っている奴等の責任問題にもな。

秘書 ねえ、憶えているわよね。例の件？

須磨 ああ、事が成就した暁には……（ニヤリ）。

秘書 安心したわ、これだけ力貸して忘れられたら怨むところだもの。

須磨 冗談じゃない、あなたに怨まれたらどれだけの目にあつかは分かっているつもりだ。私達は運命共同体だからな。

秘書 フフ……（何かの発信音）。ちょっと待って……二課からA型装備の使用許可申請だそうよ。

須磨 連中、始めるつもりのような。

須磨・秘書含み笑いと共に退場

あきら 走ってくる。

あきら ほらみんな急いで！

ジヨニー 剛史で作蔵を抱えている。

ジヨニー まてよ、爺さん重いんだから。

作蔵 さあさあ、急いでくれよ。わしのプレゼントを世界中の子供達が待ってるんじや。

ジヨニー ……置いていこうか？

剛史 まあまあ、しかし、地獄に環状線があるなんて……。

ジヨニー チケットもってなかったら意味無いぜ！

あきら 歩いていくしかないわね。こっちよ！

作蔵 ハイヨトシルバー！

一同退場

咲坂達登場

咲坂 あいつら、案の定駅でトラブルだ。駅員からは逃げ切ったようだが。

桃成 なあ、連中どこに向かっていると思う？
咲坂 さあな

電話持って二課登場

二課 (電話をかける)

咲坂 はいこちら咲坂

二課 君達の報告から重要なことが分かりました。彼らは我が社に向かっています。

桃成 何だって？

二課 彼らを目撃した場所がこちらにだんだん近づいているんです。

咲坂 連中、一体何のつもりだ？

二課 それは分かりませんが、しかし、必ずここへ向かうまでに取り押さえてください。

桃成 しかしどうやって？

二課 彼らがこっちに向かっていると言うことは、ルートは割り出せたも同然、本社までのさまざまな地獄で待ち伏せしておくべきでしょう。

咲坂・桃成 はっ！

二課 A型装備の使用許可はもう少ししかかりそうです。その代わりに、そこから一番近い地獄にS型装備を用意させました。

桃成 S型？ そんなの知らないぞ。一体何だ？

二課 良い知らせを待っています(ガチャ)。

咲坂・桃成 肯きあって退場

OL 課長 お茶です。

二課 いや、ありがとう。……無灯君の入れるお茶はいつも美味しいねえ。

OL (何が入ってるかも知らないくせに……)

二課 何か言った？

OL いえいえ何も。それで、咲坂君達はどうするって？

二課 (耳打ち)

OL えー! あそこで待ち受けるんですか?

二課 最寄りの地獄はあそこしかないからねえ

OL かわいそうに……。

須磨 他人のことを心配している余裕はあるのかね?

二課 須磨君?

須磨 先程持ってきてもらった仕事だ。

OL えっ……もう終わってる! ウチなら三日はかかるのに!

須磨 一課は優秀な社員が多いからね。君達と一緒にしないでくれ

二課 で、君自ら持ってきてくれるとはご苦労なことですね

須磨 まあね。我が社の危機に自らが手を下すことの出来ないもどかしさ。君達には分かるまい。まあ、もともと一課の人間はこんな

ミスはしないけどね

OL あの……。

二課 (OLを止めて) 耳が痛いよ。ハハハハハハ……。

須磨 まあ、せいぜいこれ以上足を引っ張らないでおくれよ

須磨退場

OL あんなこと言われて黙っているんですか?

二課 何言ってるんだね。じき重役と名高い須磨君の機嫌を損ねるわけにはいかないじゃないか

OL でも……。

二課 君も、玉の輿とか狙ってるんなら少しは気にしたほうがいいよ

OL いいんです。私ああいう人嫌いですから

二課 ほう、ならどういのが好みなのかね?

OL それは……その……(もじもじ)。

二課 (電話) はい、こちら営業二課……あつゆかりさん (奥さんの名前)! ……はい、木綿豆腐に白菜一玉、合挽き500グラム、はい必ず買ってきます、では。(カチャ) ……何の話だったっけ?

OL ……もういいです (退場)。
二課 え? ちょっと武藤くん!

二課退場

あきら達登場

あきら そろそろ地獄と地獄の境界線よ。

剛史 国境は警戒しないといけませんね。

ジヨニー どうでもいいけどさっさと行こうぜ。いかげん爺さん重いんだよ。

作蔵 行けーペガサスよ、アンドロメダの元までー!

剛史 とりあえず、境界線越えたら休みましよう。

あきら そうね、けっきょく何も食べてないし。

ジヨニー おい、ところで境界線越えたら何て地獄なんだよ?

あきら 印刷がかすれて読めないのよ。何とか鬼ってまで読めるんだけど……。

ジヨニー まあ、行けばわかるな。おい、爺さんもう少し行くぞ。

作蔵 (てきとーなあいづち)

あきら達退場

ばんそうこうとか包帯を巻かれた?。本を読んでいる。

? 『やあジャック、今日はトルネイド12000の素晴らしさを教えてくれるんだって?』 『ああ、でも、その素晴らしさに腰を抜

かすなよ!』 『観客笑う』 『まず、こいつの素晴らしいところは宇宙時代の新素材で出来ているって所なんだ。それだけでも今

までと違うのが分かるよな?』 『宇宙時代の新素材かい? そいつはすごいや!』 『試してみようか? ここにあるのが僕の愛

車さ。まず……』 『おいおい、ボンネットにコルタルなんかかけていいのかい?』 『大丈夫さ、ここでこのトルネイド12

000をかける。そして、一日五分間のトレーニングでこのとおりの素晴らしい腹筋が出来上がるって訳さ』

声 お茶はいったよ。

男 お盆を持って登場

? すみません そんなことさせちゃって。

男 たまには身体うごかさないとね。でも どうやったらあんなふうにこけるわけ？ 首が変な方向に曲がってたし。

? それは 話すと長くなるんですが。

男 ふーん。まあ、幸いかすり傷で済んだから良いけど……。

? 申し訳ありません。あなたのお世話をするはずの私が逆に……。

男 いいってば。……その面白い？

? ……何なんですか、これ？

男 身体動かそうと思って。

? はあ……（お茶を飲む）……何入れました？

男 ある物を適当に。

? 入れなおしてきます。

? 退場

男 （再び本を開いて）あれから何回か男を見かけた。しかし、僕は話し掛けようとは思わなかった。木々の間から男の様子を覗き見る。男は何かを探しているようだった。地面を掘り返し、草をかき分け、釣りをしている僕の目の前で湖に飛び込んでみせた。それでも、見つからないらしくその度に落胆した様子で、どこかへ帰っていった。あの男はどこへ帰るのだろう？ 一度だけ後を追ったことがある。すぐに見失ったけど……。それからさらにしばらく経って、いつものように釣りに出かけると、岸辺で男が死んでいた。かわいそうに溺れ死んだのだ。身元を表すものは何も無かったので、僕はそのまま森で一番大きな樹の根元に埋めてやった。男は一体何を探していたのだろうと思いつながら再び釣り糸を垂らしていると、今度は女がやってきた。

男 退場

報告書を手にしている秘書

秘書 二課からの報告がありました。…芳しくないようですね。引き続き捕縛を試みているようですが…ああ、そのことですか？
表沙汰になるようなことは決して…ええ、そうです。では報告を終了します。

ノックの音

秘書 どうぞ。

二課入ってくる。

秘書 何でしょう？

二課 状況の報告を…。

秘書 報告なら書面で見ました。

二課 それと、そちらの方では脱走者について何か情報はないかと…。

秘書 それも二課のやらなければならないことの一つではなくて？

二課 でも、秘書課の情報収集能力には勝てませんので。あなた方のことです。すでにある程度のことにはわかってらっしゃるんでしょう？

秘書 ……さすがですわね。現役時代の勘はまだ鈍ってないとお見受けしましたね。

二課 そんな人を第一線から退いたように…。

秘書 営業二課は第一線ではありません。

二課 ……相変わらず厳しいですね。

秘書 (さっきのとは別の書類を出して) 脱走者の使いそうなルートの手配です。

二課 これはこれは…後一つお願いが。

秘書 何でしょう？

二課 (紙を出し) これの許可を…。

秘書 これは…社長と共に考慮させていただきます。

二課 では これで

二課退場

秘書 ……さて どうなることやら

秘書退場

あきら 達次の地獄にたどり着く。

あきら どうやら追ってこない様ね

ジヨニー 気を付けるよ。コンビニの時みたいに待ち伏せしてるかも知れないぜ。

剛史 ちょっと様子を見てください。

剛史退場

作蔵 おお もう着いたのか？

あきら まだよ 道のりとしては半分も来てないね

作蔵 そうか……。

ジヨニー ん？ 爺さんともに戻ったのか？

作蔵 早く着かないと母さんとまた入れ違いになってしまう……。

ジヨニー 何の話だ？

作蔵 おいでアメリカ！

ジヨニー ハウスアニメかい！

あきら ちょっと、ここ『ときめき地獄』だって！

ジヨニー はあ？ なんだよそりゃあ？

作蔵 ときめきかあ 最近めっきり食べてないのう……。

あきら　ときめきは分かるけど、何故地獄？

ジヨニー　生前ときめいていたやつが落ちるのか？

二人　うーん……。

声　人が来ます！

剛史戻って来る。

ジヨニー　人って？

剛史　そっそれが……。

あきら　もしかして、あれ？

制服姿の咲坂と桃成登場（S（制服）型装備）。

あきら　……何その格好？

咲坂　待ってたぞ！

桃成　来なかったらずっとこの格好かと思ってたぜ。

ジヨニー　だから、何なんだよそのかっこうは？

咲坂　何故この格好かというと、

桃成　それはここが……

咲坂・桃成　ときめき地獄だからだ！

あきら　だから何？　ときめき地獄ってなんなのよ？

咲坂　ここは、生前ときめきが足らなかった者達が落ちる地獄なのだ。

桃成　だから、ここにいる時は常にときめいていなくてはいけないのだ。

あきら　で、制服？

ジヨニー　安直。

剛史　侮っては駄目であります。自分は先程奴等に……。

あきら　奴等に、何？

剛史　ときめかされました。

作蔵　青いのう、若人よ。でも、それを乗り越えて成長するのじゃ。さあ、夕日に向かって走るんじゃ！
ジヨニー　ときめいたからどうなんだよ？

咲坂　この地獄では、ときめきが攻撃力を持つのだ。見る！

咲坂・桃成　『登校中にぶつかった相手が転校生だった』

というシチュエーションを演じる

爆発音　あきら以外吹っ飛ぶ

ジヨニー　何なんだこれは？

剛史　自分もこれでやられたであります。

作蔵　星が星が……。

あきら　どうしたの確かに何か衝撃は来たけど、それだけじゃない。

桃成　きつ効いてない！　ならこれは……。

『ぐりぐり眼鏡の委員長の眼鏡の下の素顔を見てしまっ』

再び爆発音

あきらにはあまり効いていない。

咲坂　この攻撃が効いていないなんて、もしかしてお前

咲坂・桃成　ときめいているな！

あきら　当たり前よ、こっちは現役女子高生よ！　つまり、そういうことしたら闘えるって訳ね　いくわよ！

ジヨニー　いくって何を？

あきら　同じ事をするのよ。

剛史　でも、自分は男子校で……。

あきら　今はジュネ系もありよ。おじいちゃんは見学ね　いくわよ！

あきら達も何かする
以下ときめき合戦
どっちが勝っても……。

あきら 中々やるわね

咲坂 そちらこそ。

ジヨニー こっちはボロボロだぜ

剛史 これ以上は無理であります。

桃成 次で決着だな

一同 いくぞ！

その時

作蔵 婆さんや！

桃成 何だこの爺さん？

作蔵 婆さんではないか。それもはじめてあった時の。懐かしいのよ

咲坂 はなせ、この。

作蔵 (あっさり投げ飛ばし) あれは いつじゃったかのう……。

作蔵 桃成を婆さんと思い込みお暴ね

咲坂 一旦引くぞ。

桃成 ああ。いい加減はなせ！

咲坂達逃亡。

作蔵 待ってくれ ばーさんやーい！

剛史 追ったらだめです。

ジヨニー ……何だか訳分らないうちに勝ってしまったな

あきら それにしてもおじいちゃん何気に強いのね。ちょっと見直した。
作蔵 ばーさん！

あきら あたしじゃなくあいつら見てあの反応なのは複雑だけど……。

剛史 今の騒ぎで人が集まって来ましたよ。

ジヨニー ずらかるぜ！

あきら達退場

須磨と秘書の会話

須磨 フン……とうとうヤツが動き出すな。

秘書 どうするの？ このままじゃ危ないかもよ。

須磨 ロートルに何が出来る？

秘書 油断は大敵よ。万が一って事があったら私にまで及ぶのを忘れないでよね。

須磨 分かっているさ。

秘書 なら態度で見せてよ。あいつらの妨害をするとか。

須磨 それより面白いことがある。

秘書 何よ？

須磨 人読んで『紫のバラの人作戦』だ。連中の援助を影ながらしてやるのさ。

秘書 へえ、まめなことね。

須磨 本当に必要なことの為なら、まめにも謙虚にもなるさ。というわけで、これが終わったら食事でも？

秘書 上手く行ったら乾杯しましょ。

二人退場

あきら達登場

あきら 追ってきてないわよね

ジヨニー とりあえず連中も着替えなきゃいけないだろうしな

剛史 作蔵さんのお陰で助かりましたね

ジヨニー 全く怪我の功名 不幸中の幸いって奴だな

あきら そんなこと言っちゃ駄目よ。おじいちゃんだって好きでボケたわけじゃないんだから

ジヨニー 好きでやられてたまるか

剛史 それにしても、ずいぶん歩きましたね

ジヨニー 時間わからないけど、あの船から丸一日経ったんじゃないか？

あきら ずいぶん長い一日よねえ

作蔵 うむ。長かった

ジヨニー ん？

作蔵 苦節二十年 銀河を我が手に……

剛史 (作蔵の様子を見て) ……寝てます

ジヨニー おい、爺さん起きろよ。爺さん！

作蔵 爺さんではない、私はキシリッシュのキャンペーンガール……

剛史 起きませんね

あきら いっそのことここで休まない？ あたしも眠くなっちゃった

ジヨニー ……しかたねえな。少し休むか

剛史 はい。こちら辺なら、見つかる心配もなさそうですしね

あきら (地面に線を引いて) あんた達、ここから先来たら殺すからね！

ジヨニー 誰が行くか！ なあ？

剛史 ……えっ、そうですか

ジヨニー ということだ、誰もあんたなんか襲つか！

あきら 失礼ね。こんなぴちぴちの女子高生捕まえて、あたしに魅力がないっていうの？

ジヨニー 襲ってほしいんか、欲しくないんかどっちだ？

あきら とにかく来るなあ！

剛史 まあまあ、とにかく明日も早いんですから。

一同 おやすみなさーい！

一同 寝る。

寝ている一同を男が見ている。

その上では？が本を読んでいる。

？ 女は夜中の国から来たと言った。『あの男も夜中の国の住人だったのよ』と女が言ったので、死んだ男とこの女が知り合いだとい

うのがわかった。『夜中の国の人は真昼の国に来ることが出来るの？』と僕が尋ねると、『あの男は昔真昼の国に住んでいたから、私もそう。そして、一度夜中の国に行った者は長い時間真昼の国にはいられないの』と女は言った。そして、女は僕が埋めた男に手を合わせるとどこかに消えてしまった。夜中の国に行った真昼の国の男は、一体何を探していたのだろうか？ そう考えながら糸を垂らしていると、ルアーが何かを引っかけた。それは、銀色のポケットだった。……全くどこに行ったんでしょねえ。

？、男を探して退場

男 ロケットはなぜか開かなかった。僕は何となく、男の探していた者はこれなのではと思った。長くはいられない真昼の国で、男が命を賭けて探していた銀色のロケット。中にはどんな写真が入っているのだろう。そして、男はどうして夜中の国に行ってしまったのだろう。僕はそれをポケットにしまった。そして、またしばらく経って女がやってきた。僕はこう言った。『僕を夜中の国に連れていってくれ』と。

一同の起きる気配で慌てて男は立ち去る。

一同 腹へって、ねむれなーい！

あきら 結局何も食べてないのよねえ。

剛史 強行軍でありましたからね。

ジヨニー　なんか食えるものないのか？
作蔵　晩飯はまだかのう？

ジヨニー　まだっつーか、食うものねえんだよ！

あきら　何か取れないかしら？　ほら、野草とか

剛史　地獄に生えているようなもの、自分には分らないですよ。

あきら　じゃあ、生き物を……。

ジヨニー　みんな死んでるって。

あきら　じゃあ、どうすればいいのよ！　あたしこのままじゃ飢え死にしちゃうよ。

作蔵　そう、漂流も十日目、もうすぐ飢え死にするところじゃった。ある日コック長がウミガメのスープを作ってくれた。とても美味

しくて、わしはそれで命を……。

あきら　それって本当はウミガメじゃなくて、先に死んだ船員の死体ってオチじゃなかったっけ？

作蔵　！

剛史　でも、自分達もう死んでいるんだし飢え死にはないんじゃないですか？

ジヨニー　バカ、考えても見ろ。俺達ここでは魂みたくにもんだ。魂が死ぬって事は、完全に死んでしまっって事だろうが？

声　困っているようだね？

一同　？

変装した須磨登場

あきら　誰？

須磨　私は人読んで『紫の〇〇の人』！

ジヨニー　なんだあ？

須磨　正体はわけあって明かせないが、君達の力になりたいと思っっている者だ。

剛史　何のために？

須磨　それも秘密だ。

ジヨニー　怪しさ大爆発だなあ。

須磨　疑うのも無理はない。そこで、君達に救援物資を持ってきた。

リュックを渡す。

あきら あっ食べ物！

剛史 あっ拳銃まで！

須磨 あと、君達が必要だろうと思う者を入れておいた。

ジヨニー しかし、胡散臭いなあ。こんなことしてあんたに何の得があるんだよ？

須磨 君達は大きな陰謀に巻き込まれている。それから救うのが私に課せられた重要な使命なのだ。

作蔵 そうそう、名前（氏名）は重要じゃ。

須磨 ……では、さらば！

須磨退場

あきら ありがとう、『紫の〇〇の人』！

ジヨニー おいおい、簡単に信用していいのか？

あきら 別に信用できないのなら食べなくていいわよ。

ジヨニー 誰が食べないなんて言った？

剛史 作蔵さんのおむつまでありますよ。

作蔵 何、わしの新しい頭？ ジャムおじさん！

上では須磨と秘書の会話

秘書 わざわざご苦労なことね？ 『紫の〇〇の人』

須磨 人に任せられることではないからな。それに、あそこで連中に野垂れ死にされるわけにはいかないからな。

秘書 確かにそうよね。

須磨 営業二課の死者管理ミスを理由に今の社長を失脚させる計画。万に一つも失敗は許されない。第一、そのために、本来地獄行きじゃない奴らを地獄行きに仕立て上げたんだ。もう後には引けない。

秘書 フフ、そんな事口に出してもいいの？ 盗聴機が仕掛けてあったらどうする気？

須磨 誰が仕掛けるというのだ？

秘書 この私。

須磨 フツ中々面白い冗談だ。

秘書 さっ、営業二課もそろそろしびれ切らすところね。申請の受理をしてあげないと。

秘書退場

秘書 そうだ、その変装センス疑われるわよ？

須磨 そうか？

須磨退場

あきら さて、お腹も気力も十分！ 行くわよ！

あきら達も出発

咲坂と二課の電話での会話

咲坂 ときめき地獄で見失ってしまっ……。

二課 そのようですね。とりあえず、彼らの移動ルート予想は手に入れました。今からそのように動いてください。

桃成 (入ってくる) やっぱこの道を通っている。しかし、

咲坂 しかし、何だ？

桃成 食べ物を食べた後がある。食料を手に入れる隙なんてなかったのに……。

咲坂 ……聞きましたか？

二課 ええ、もしかすると何者かの助けを得ている可能性がありますね。

桃成 何者か？

二課 ええ 判断はつけかねますが……。

咲坂 ということは 連中のほかにその援護者も相手にしないといけないってわけか。

二課 とにかく 彼らが次に行くであろう地獄に M型装備を用意させました。それで何とか迎え撃ってください。

桃成 M型？

二課 健闘を祈ります。

咲坂と桃成退場

OL あーあ ライブ始まっちゃった (チケットを見ている)。

二課 おや、二枚あるんだね 誰と行くんだい？

OL そっそれは……。

二課 まあ 武藤君のことだから 彼氏とかな？

OL いえ、そういうんじゃない……。

二課 いいよいいよ、かくさなくなっちゃって。君くらいの若い娘が彼氏の一人や二人いないわけがないからね。うんうん、いいことだよ。

OL ですからあ……。

二課 ライブで縦ノリのあとは 彼氏の縦ノリかね。うん？

OL、書類を二課に投げつける。

OL A型装備の使用許可が下りました。早速準備に取り掛かります！

二課 むっ武藤くん！

二課・OL退場

みんなからはぐれてしまったジヨニー登場

ジヨニー おーい！ ……ちよっと用足すから待ってるって言ったのに あいつらも 用足しに行ったのかな？ 変な連れシヨンだな ……。

誰かやってきて倒れる。

ジヨニー おい どうした？ (駆けよって) ……死んでる！

手には血まみれのナイフ。

通りすがりの人 ……ひっ人殺し！

ジヨニー ちっちがう、これは…。

通りすがりの人 走り去る。

入れ違いに 刑事の格好をした咲坂・桃成がやってくる。

咲坂 大人しくしろ！

桃成 山田五作 殺人容疑で逮捕する。

ジヨニー その名前で呼ぶな！ ……あっお前らは地獄商事！

咲坂 違う、捜査一課の咲坂だ。

桃成 同じく桃成。

ジヨニー 捜査一課？

咲坂 そうだ、山田五作大人しくお縄につけ。

桃成 大人しく自首すれば お上にも慈悲がある！

ジヨニー 自首って 俺はやってない！

咲坂 ならそのナイフは？

ジヨニー こっこれは…。

あきら達やってくる

あきら 五作ったら、どこに行ったのよ？

剛史 あっあれ！

あきら 地獄商事！

咲坂 違う、捜査一課の咲坂だ。

桃成 同じく桃成。

咲坂 その殺人犯を取り押さえるところだ。邪魔すると公務執行妨害だぞ。

あきら 殺人犯？ あんたとうとうやっちゃったのね。

剛史 こんなことになるなんて……。

作蔵 わしの力が足りなかったばかりに……。

ジヨニー おい、あっさり信じるなあ！

桃成 というわけだから、こいつは連行していく。

ジヨニー 捕まってしまう。

剛史 どうでしょう、ジヨニーさん連れていかれてしまいますよ。

あきら 仕方ないんじゃない？ 人殺しちゃったんだから。

ジヨニー 俺はやってない！

作蔵 この期に及んでいいわけとは……わしはお前をそんな風に育てた覚えはない！

ジヨニー 育てられた覚えがない！

火曜サスペンスのアイキャッチ流れる。

咲坂 CMだ。

桃成 CMだな。

死体 じゃ、僕はこれで……。

咲坂 お疲れ様
桃成 お疲れ

あきら どういう事よ？

咲坂 フッフフ、教えてやるわ。ここは ミステリー&サスペンス地獄だ

剛史 ミステリー&サスペンス地獄？

桃成 この地獄では 常に殺人事件が起き必ず誰かが犯人とされてしまうのだ。ちなみに俺達はそれを捕まえる刑事役

剛史 ということは……

ジヨニー だから俺はやってないって言ってるだろう！

あきら 今CM中って？

咲坂 今は役割を休憩している時間だ。刑事でも犯人でもない時間だ

剛史 なら、今のうち（拳銃を出す）。

火曜サスペンスのアイキャッチ流れる

桃成 CM明けだ。

咲坂 おっあいつ！ 銃刀法違反！

剛史 え？ ……しまった！

咲坂 お前も逮捕だ！

剛史も捕まる

あきら おじいちゃんどうしよう！ このままじゃ皆捕まっちゃうよ！ リュック預けてるでしょ？ 何かないの？

作蔵 ん？ そうかそうか、お小遣いが欲しいか。ほら……。

あきら そうじゃなくて！

桃成 女子高生が年上の男性から金を貰っているぞ。

咲坂 援助だ！ 補導してやる！

あきらも捕まる

咲坂 よし、後はあの爺さんだけだ。

突然作蔵は座り込む。寝ている様子だ。

作蔵 待ってくださいよ。犯人は別にいます。

桃成 何？

上で蝶ネクタイに話し掛けている変装した須磨

須磨 五作さんのナイフを見てください。利き手と逆に持っています。これでは相手を刺せません。それに、自身が刺されて死んでい
る以上人に対してそんな殺し方は出来ませんよ。第一動機がない。

咲坂 しかし、目撃者が……。

須磨 先程の目撃者、よく見たら返り血がついています（そんな服を着ていること）。その上、被害者に五百万ほどの借金があります
。つまり、犯人は彼です。

桃成 ということは……。

ジョニー 刑事役なんだろう？ 犯人捕まえに行けよ。

あきら そうそう。

咲坂 くっ……行くぞ！

桃成 憶えてるよ！

咲坂達退場

剛史 助かりましたね

ジョニー おい、お前ら

剛史 何でありますか？

ジヨニー 俺が殺人犯だなんて信じやがって！

あきら 仕方ないじゃない。あんた悪役なんだし。

ジヨニー 誰がだ！ 爺さんの推理で助かったものの……。

あきら あっそうそう、おじいちゃんすごいじゃない！

作蔵 ……今日、何日やろう（パタン）？

剛史 ……寝てます。

須磨 危なかったな。

あきら 紫の〇〇の人！

ジヨニー もしかして今のは？

須磨 そう、私の助けが間に合わなければ君達は今ごろ……。

ジヨニー 一体何が目的だ？ 俺達を助けて何がしたい？

須磨 それは、私が正義の味方だからだ！

剛史 正義の味方？

須磨 是非とも先に進んで不正を暴いて欲しい。では！

須磨退場

あきら ステキ……。

ジヨニー お前絶対変

あきら 何言ってるのよ、あたし達二度も助けられたのよ。

ジヨニー それがだよ、何の得もないのに人を助けるっていうのが信じられない。

剛史 人の真心が信じられないんですね。

ジヨニー くら、かわいそうな人を見る目で見るな！

作蔵 ……うーん、夢を見ていた。

あきら おじいちゃん 起きたのね。

作蔵 私達はもう一度アキラ君に遭うのる

あきら あたしに会ってどうするのよ？
ジヨニー とにかく早く抜けようぜ このままじゃまたいつ犯人にでっち上げられるかわからん

あきら 達退場

？、電話をしている

？ あの人はいつもあんな感じで、全然私の言うことなんて聞いてくれないんです。何か自主的に始めたと思ったら変なもの作るし、出かけたと思ったら全然帰ってこないし……この仕事続けていく自信がありません

電話を聞いている秘書

秘書 貴方の気持ちは分かりますね。でも、そこで諦めては駄目。彼が我俣言えるのは貴方だけなんです。ここは、広い大きな心で彼を包んであげるのです。そうすればきっと彼も貴方の真心に気付いてくれますね。

？ そうでしょう？

秘書 ええ、試しに帰ってきたら怒らずにいてあげたらどうですか？

？ ……つけ上がりませんか？

秘書 いいえ、海のように母のように包み込んであげるのです。そうすることが貴方と彼の関係を良好にしますね。
？ ……考えてみます。では

？、電話を切る

秘書 引き続き、悩み相談を受け付けます。電話番号は……。

男が現われ指を鳴らすと、秘書の動きが止まる。

男は、ポケットから紙を出すと秘書に持たせて再び指を鳴らす。
再び動き出す。

秘書 ?……(電話を出し)私です。例の申請書類の件 許可ということで通達してください。では

?が迎える準備をしている

? 広い大きな家で 海のように母のように包み込んで……。『おかえりなさいーい! 外はどうでしたか?』うーん 『お帰りなさい、食事とお風呂どちらにします?』違う違う……。『お帰りなさいませ 外は寒かったですよ。あったかいコリアを用意しました』これですな

男帰って来る

? おかえりな……。?

男 ジャンボ!

? ……ジャンボ。

男 留守番ご苦労る

? ……いっ一体床ほつき歩いていたんですか? 探したんですよ

男 散歩。

? 散歩ってどこに?

男 それは秘密

? ……世間の俗事から逃げたいって出てきた人がそこから更に出かけてどーすんです?

男 別にいいじゃん

? ご主人様!

男 はい、ご主人様はここです。そして君は?

? ……。

男 これは僕の休暇だよ。だから僕の好きに使う。

? ……では、好きにしてください。

? 退場

男 ふざけすぎたかな……。 (本を開く) 夜中の国についた僕は女と一緒に暮らした。女の名前はマヤ。僕は僕が真昼の国で埋めた男の部屋に住むことになった。つまり、あの男とマヤは一緒に暮らしていたのだ。一緒に住んでいる女から離れ、真昼の国で死んだ男は何を思っていたのだろうか……。

寝ている一同 あきらが目覚める

男 夜中の国は真昼の国と違って街があり、人が沢山いた。僕はそこで魚を売ることにした。僕には釣りしかなかったからだ。毎日僕は魚を売り、売り上げを持って家に帰り、マヤと食事をするという生活を続けた。マヤも働いていたが何をしているのかは教えてはくれなかった。

あきら 誰？

男 ……起きてたの？

あきら 起こされたの。

男 元気に死んでる？

あきら 質問に答えてないわよ。誰なのよ。

男 君は自分が何者であるか性格かつ明確に認識できるの？

あきら わざと難しく言ってるでしょう？

男 わかる？

あきら あんた誰なの？ どうしてその話を知っているの？

男 さて私は誰でしょう？ ①ヒクソン・グレーシート ②ニコラス・ケイジ、③小野妹子 ④バスコダ……。

あきら 話を聞きなさいよ！ どうしてあんたがその話を知ってるの？ あたしが昔書いたその話を？

男 ……もうすぐ、目的に着くね

あきら え？

男 ついたらどうするの？

あきら そんなことあんたには関係……。

男 ついたらどうするんだい？

あきら ……閻魔様に文句を…。

男 そんなことじゃない。本当は何をしたいんだい？

あきら 本当のこと？

男 君が本当に望んでいるのはなんだい？

あきら それは…。

男 ある日のことマヤが言った。『今日は儀式の日よ』と。『儀式？』と僕が尋ねると、マヤが説明してくれた。僕は本当に夜中の国の住人になったわけではないのだそう。僕が本当に夜中の国の住人になるためには、儀式を受けなきゃいけない。そして、それは二度と真昼の国に買えられないことを意味する。『あの人はそれなのに真昼の国に行って、そして死んだの、馬鹿な人』マヤは表情も変えずに言った。でも僕は知っている。マヤが僕と出会ったのは、きっと男を追ってきたからなのだ。でも、僕はその事を口に出さずにおいた。

男退場

あきら ちょっと待ちなさいよ！

ジヨニー なんだようるせえなあ

三人起きる。

剛史 どうしました？

あきら ……。

ジヨニー もうすぐしたら地獄商事のある中心地なんだ。今休んでおかないと辛いぜ。

作蔵 そうそう、寝る子は育つんじや。というわけでわしは寝る。

ジヨニー 爺さん育ち盛りだったのか…。

あきら ……あたくし、どうしたいんだらう。

剛史 何ですか？

あきら あたくし、何をしたいんだらう。

ジヨニー 何だいきなり？ 閻魔大王に文句を言いたって言ったのはあんただらう？

あきら その後よ。あたし、その後どうしたいんだろっ？

剛史 何かあったんですか？

あきら あたし死んでしまっつて、もう終りで、この後何もないのに何あがいてるんだろっ。

ジヨニー おい、ここまで来てそんなこと言うなよ！

剛史 そうですよ、自分達はこれしかないんですから。

あきら ……だっつて…。

ジヨニー 後のことなんて、後で考えたらいいんだよ。今は、今のことを…。
声 考える必要はないぜ！

甲冑に身を包んだ咲坂・桃成登場

桃成 お前達はここで捕まるんだからな。

剛史 今度は何の地獄ですか？

咲坂 今度は真剣勝負だ！

桃成 このA型装備を身につけた以上、地獄の法則に関係なく実力行使が可能なのだ！

ジヨニー 最後は腕づくかよ！

剛史 こうなったら戦いましょう！ ジヨニーさんはあっち（桃成）を！

ジヨニー おう！ っつて俺戦えないじゃんかよ！

戦い。しかし、拳銃は効かない。

戦いは咲坂達の勝利に終わる。

咲坂 じゃあ、連行させてもらっつぜ（あきらを掴む）。

あきら 嫌！

その咲坂の手を作臈が掴む。

桃成 咲坂！

咲坂 くっこの爺 何て力だ？

剛史 作蔵さん！

作蔵 咲坂を投げる

作蔵 ……みんな 迷惑をかけた様じゃのう。

あきら おじいちゃん 治ったの？

作蔵 みんなが頑張っているのに、わしだけボケてはいられないからのう。さあ、かかってきなさい！ あきらちゃん 悩むのは結構じゃ。しかし、若いものはそれよりも多く前に進め。たとえ、つまづいても掴み取れる何かがあるはずじゃ。

あきら おじいちゃん……。

作蔵 さあ、かかってきなさい（構える）！

ジヨニー 爺さんヨボヨボじゃねえか！

桃成 緒戦はヨボヨボジジイ、行くぞ！

咲坂・桃成と作蔵の戦い。

咲坂 こっこの爺、ヨボヨボのくせに

咲坂・桃成 むっちゃ強い。

作蔵 ふっふっふっ……ヨボヨボの動きで開いてを幻惑し、隙について倒す。つまり衰えれば衰えるほど強くなる。これぞ衰拳（すいけん）！

ジヨニー 爺さん、いいぞ！

あきら おじいちゃん頑張ってる！

咲坂 衰拳？ くっこうなったら……。

桃成 こうなったら？

咲坂 戦術的撤退だ！

咲坂達逃げる

剛史 逃げますよ。こうなったらこの勢いで先に進みましょう！

ジヨニー いざとなったら爺さんがいるしな

作蔵 あきらちゃん 行こう。全てはそれからじゃ

あきら ……うん！

あきら達退場

男と？がいる

？ いいかげんにしたらどうですか？ あと七カ月とちょっとですよ。そろそろ準備をしないと……。

男 準備ならもう終わってるよ。千九百年も前にね

？ なら……。

男 君には遊びの心が足りない。それが君がハリウッドスターになれない理由だ。

？ 別になりたくないです。

男 チョウ・ユンファと共演したくない？

？ ちょっと興味あります。

男 そういうことだ。

？ 説明になってません

男 まあまあ、後少しさ。どうせ世界は終わる。それまでの余興だ。

？ ……それが返事だと取っておきますよ。

？退場

男 儀式の時は来た。僕は街の中央広場に連れてこられた。町の人達が僕を取り囲む。みんな明るさのない影を背負った顔だ。『儀式

を始めるわ、あなたから真昼の光をすべて取り去ってしまうの』とマヤが言うと同時に、みんなが僕の上にのしかかった。真昼の国から持ってきた服が帽子が靴が彼らの手で取られていく。『真昼の国も夜中の国も、本質的には何も変わらないの。ただ何を基準に置くかの違いだけ。真昼の国は希望を、夜中の国は絶望をとどめているの。でも、つねに希望に包まれているのは辛い事。だから、みんな絶望の中に安らぎを求めて夜中の国に来るの。私とあの人がそうだった様に……』マヤの言葉を聞きながら、ぼくは次第に意識を失っていった。

男退場

戦闘服に身を包んだ二課と〇〇の会話

〇〇 課長、その姿は……。

二課 やっと使用許可が下りたんだよ。百二十年ぶりだが、サイズが変わってなくて安心したよ。少しホコリはかぶってたけどね。

〇〇 ということは、まさか？

二課 ……咲坂君達が、負けたそうだが、連中はもうこの近くまで来ています。

〇〇 しかし、

二課 社長からの命令ですよ。『この一件は二課の全体責任とする』、部下の不始末はやはり私がつけます。一応上司ですからね。

二課立ち去ろうとする。

〇〇 駄目です。行かせません。

二課 武藤君……。

〇〇 私、知っているんです。今度戦ったら課長の体はもう……。

二課 何故そのことを？

〇〇 春の健康診断のカルテ、見てしまったんです。

二課 ……そうか、知っていたのですか。

〇〇 その背中の傷、そのせいで第一線から退いたことも、その傷が今もなお課長の身体を蝕んでいること、私全部知っています。二課、何故そこまで……。

OL だって……好きな人のことは全部知りたいですから。

二課 武藤君……。

OL 美和って呼んでください！

二課 しかし、私には妻も子も……。

OL そんなこと構いません！（二課との思い出を語る）その時から私 課長のことを……。だから 行かせたくないんです。

問

二課 武藤君 気持ちは嬉しいよ。しかし、男はたとえ茨の道でも進まねばならない時があるんです。

OL やはり、止められないんですね……なら、私も。

実はOLも着用済み

二課 武藤君！

OL 私も営業二課の一員です。私も戦います。課長を絶対死なせません。

二課 ……。

OL ……。

いい雰囲気なのに、咲坂達が駆け込んでくる。

咲坂 課長もう駄目です！ 奴等ここまで来ています！

桃成 ここを越えられたら後がありません！

あきら達の声 閻魔大王でてこいやー！

あきら達登場

二課 とうとうきましたか、地獄にさまよう亡者としては良くここまで来たよ、誉めてあげたいところですねえ。

あきら 亡者じゃないわよ！ あたし達はあたし達の望むものを手に入れるために来たんだから！
二課 望むもの？ 一体何ですか？

あきら わからないけど……最後まで来たらわかるような気がするのよ！

剛史 とにかく、先に進ませてもらいます。

咲坂 そうはいくか、こっちだって地獄の鬼の意地がある！

桃成 お前達を通したら俺達が路頭に迷うからな！

ジヨニー まだどうか 爺さんやっちなえ！

作蔵 衰拳一の構え 『立ち眩み』！

二課 なるほど、それが世に聞く衰拳ですか？ あなたは私が相手しましょう

咲坂 おい、あのマント……。

桃成 百二十年前に起きた亡者の反乱の際、三千万を超える亡者に一人で立ち向かったという伝説の黒マント！

二課 ……そう言えば、そんなこともありましたね

咲坂 まさか……。

桃成 俺達そんな人に……。

OL 課長……。

二課 手出しは無用です。

作蔵 では、参るぞ。

あきら おじいちゃん

剛史 作蔵さん、お願いします。

ジヨニー 爺さん、あんたが頼りなんだからな

二課と作蔵の戦い。

二課が辛うじて勝つ。

あきら おじいちゃん！

作蔵 むっ無念……。

二課 (崩れ落ちる)

OL 課長！

咲坂 さて、頼りの爺はこれで終りだ。大人しくしろ。

剛史 ここまで来たのに……。

桃成 まあ、所詮亡者などこの程度さ。これで万事解決だな。

声 それはどうか？

須磨登場

二課 須磨君

須磨 全てはこれからだよ。亡者達を捕らえた後は、君達の処分だ。

咲坂 それは、社長が決めることだろう？

須磨 それは無理な相談だな。処分は社長の上にも下るのだから。

桃成 どういうことだ？

須磨 亡者の管理のミス、そしてミスを起すようなものを下においている経営者の管理ミス、それらを理由に社長の退任を要求する。

OL 何ですって？

声 すでに我が社の株の四〇パーセントは私達で独占していますね。あとはこの事実を公表し、株式総会に議題を提出するのみ。

秘書登場

二課 君達は何ということを……。

須磨 ながきに渡る支配体制を覆すのだ。そして、新社長の誕生だよ。

須磨達高笑い。

あきら どういう事？

剛史 自分達には一体何のことやら。

作蔵 どうやら、わしらは地獄商事の企業陰謀に巻き込まれている様じゃのう。

ジヨニー なあ、あいつ（須磨）どこかで見たことないか？

あきら ん……あゝ、紫の〇〇の人！

須磨 しっ知らん、私はそんな奴ではない。

あきら でも、それ。

一部変装を外し忘れていた。

須磨 しっしまった……。

桃成 （あきら達に）どういうことだよ！

あきら あの人があし達を助けてくれたの。

剛史 食料くれたりしたのであります。

作蔵 わしのおむつもじゃ。

剛史 この拳銃もあの人がかくれたであります。

ジヨニー ミステリー地獄では変わりに推理してたぜ。

二課 須磨君これはどういうことかね？

須磨 おやおや、亡者のいうことを信じるとは……。

あきら 亡者じゃないわよ！ 確かにあたし達は死んだけど、所詮この書類一枚のことだけじゃない（死亡診断書を出す）！

二課 あっあれは……。

咲坂 天国行きの書類！

作蔵 どういうことじゃ？

桃成 青色の書類の魂は天国行きなんだよ。

ジヨニー なんだよ、俺達天国行きかよ！

二課 しかしどうして？ 君達その書類を見せてくれないか？

〇L （横から見て）あっこの書類のサイン、名前は違うけど、須磨課長の筆跡に似ている！ さっき書類で見たばかりだもの間違いないわ。

須磨 筆跡ぐらいにた奴はいるだろう。

〇L こんな『ぬ』書く人なんて他にいないわよ！

咲坂 読めたぞ！ お前は本来天国行きの魂を地獄に落としたんだな 俺達がわざと失敗するように。

須磨 証拠はどこにある？ (秘書に) なあ？

秘書 ええ。

桃成 俺達がいる！

須磨 君達？ 落ちこぼれ社員と地獄の亡者 そんな奴等のいうことを信じる奴がどこにいる？ まあ 私達が『やりました』といっ

たのならともかく。

あきら 紫の〇〇の人が悪人だったなんて……。

ジヨニー だからいったじゃねえか 見返りもなく他人を助ける奴なんかいねえって。

剛史 自分達はどうなるんでしょうか？

作蔵 あの男次第じゃのう。

須磨 安心したまえ 君達は丁重に送り届けてあげるよ 地獄の最下層にね。

咲坂 そんなことが許されてたまるか！

桃成 こうなったらやっちまおうぜ、いくらエリートでもA型装備の俺達なら……。

須磨 言い忘れたが、警備部隊をこちらに向かわせている。その亡者と、反乱を起そうとした君達を捕らえるためにね。

咲坂 反乱！

秘書 そう、処分を恐れて反乱を起そうとした営業二課をね。

須磨 いくら君達でも何も出来ないよ。その古ぼけた英雄がいようがね。

二課 須磨君、君という男は……。

OL なんてやつなの！

須磨 ……何とでもいいたまえ。

桃成 こんなこといつまでも隠し通せると思うなよ！

須磨 フン、だから言っただろう。証拠はないと。何度も言う私達が自分で『やりました』といわない限り、誰も信用しないと！

あきら あたし達、もうおしまいね。

作蔵 ここまで来たののう。

剛史 あがいた拳げ句は地獄落ちでありますか……。

ジヨニー 俺はいやだぜ、あんな奴の思惑でいいようにされるのは

あきら でも、証拠はないのよ！ あいつらがいうように自由しないと……。

ジヨニー そうなんだが……こうなったら！

ジヨニー、秘書の前に飛び出す。

あきら 五作！

作蔵 五作どん！

剛史 ジヨニーさん！

ジヨニー ハイ、美しいお嬢さん、僕達を救うために自白してくれないかな？

間

あきら だめだ……。

剛史 ベタベタですな。

作蔵 あれがあのおの男の限界じゃ。

秘書 ……素敵な方……（ポツ）。

一同 そんなんでえんかい！

須磨 おい、まさか裏切るつもりじゃないだろうな？

秘書 ええ、どうせ野望がかなった暁には私だって捨てるつもりだったんでしょ？

須磨 そんなことはない、私達は同志じゃないか。

秘書 ごめんなさい、私は今から一人の女として生きることにした。貴方が裏切らない様に用意していた盗聴テープそのた一式証
拠として社長に提出するね。

ジヨニー ……やってみるものだなあ。

あきら 五作 えらい！

剛史 よっこの鬼殺し！

作蔵 わしはおぬしを信じておったよ。

ジヨニー お前ら！

二課 須磨君 形勢は逆転だよ。

須磨 ……こうなったら 警備隊！ ……警備隊！
社長の声 警備隊なら帰したぞ。

社長登場

須磨 社長 どうしてここに？ (秘書をみて) まさか！

秘書 社長は私と呼んだコンマ五秒後には現われるのよ。

社長 おまえの悪事 全て聞かせてもらった。

須磨 こっこれは……。

社長 言い訳は無用だ。最下層コキウトスで土方を三千年程して頭を冷やしてこい。

須磨 ははあ……。

社長 柳 まあお前はよい。

須磨 そんなこいつも共犯者だぞ！

社長 うるさい！ 何故お前だけ処分するか教えてやろう。 ……わたしはお前が嫌いだからだ！

須磨 ……。

社長 さて、営業二課の処分の件だが 今日を持って営業二課は解散とする。

咲坂 えええ！

桃成 俺達は悪くないぞ……いや、です。

社長 話は最後まで聞け。営業二課の社員はそのまま営業一課にうつってもらえ。今まで通りの勤務態度ではすぐクビだ。いいか？

咲坂・桃成 ははあ……。

社長 営業二課課長 桑原茂一 (もいち)、お前は地獄谷に行きだ。

二課 え？

社長 営業一課課長は激務だ。温泉で古傷を治せ。

OL 課長！

二課 武藤君！

社長 さて、お前達 部下のやったことは言え 悪いことをしたな

あきら あなたが閻魔大王？

社長 ああ。

あきら あたし達あなたに文句が言いたかったのに……。

ジヨニー 理由がなくなったな。

剛史 ということは

作蔵 わしらはこれで終りじゃな。

社長 そのことなんだが……一人手違いがあった。

あきら こんどは何？

社長 実は一人予定外の死者が出てな、死者と生者のバランスが崩れたのじゃ。だから誰かを生き返らせなければならぬのだが、生

憎死んだ当人は手続きが終わっていて、あとはまだ手続きの終わっていないお前達しかいないのだ。

ジヨニー つまりどういふことだよ。

社長 お前達の誰か一人だけ生き返られるのじゃ。

間

あきら 一人だけって……。

作蔵 あきらちゃん、あんたが生き返りなされ。

あきら おじいちゃん！

作蔵 生い先短いわしが生き返っても仕方ない。それより、あんたが行きかえっ方がいいとわしは思うんじや。

あきら ……。

作蔵 なーに、天国に行ったら行ったで、婆さんをさがして仲良く暮らすさ。

あきら だったら、他のごさ……ジヨニーだって……。

ジヨニー 五作でいいよ。俺も生き返ったって、口クな生き方するわけじゃないし、それになあ（寄り添っている秘書を見る）……。

秘書（ニコニコ）

剛史 自分も頭が吹っ飛んだ以上はいきかえられません。それに……。

ジヨニー それになんだ？

剛史 細麵パスタまだ食べてません。

ジヨニー それかい！

あきら そんな……あたしだけ……。

作蔵 考えなさい、何があきらちゃんの望んでいることか。

あきららのぞく一同 考えてごらん、君が本当に望んでいるのはなんだい？

あきら ……あたし生きたい。

音楽

一同あきらを残して去る。

男 その時、僕のポケットからロケットがこぼれおちた。地面に落ちた拍子に今まで堅くて開かなかったロケットが開いた。と同時に、ロケットから光が溢れ出す。月の光しかなかったこの街に光が溢れ出したのだ。……それは太陽だった。太陽の暖かい、そして眩しい輝きだった。光が収まった時、夜中の国には誰もいなくなっていた。マヤもいなくなっていた。僕はロケットを拾い上げた。そのなかでは、マヤと男が笑っていた。

あきら あたしは、駅長室のベッドで目が覚めた。向かいのホームの人身事故をみて気を失ったのだと様子を見に来た駅員さんが話してくれた。……ホームから落ちたのは阿多俊がいつも見ていたあの人だった。……彼が死んだ代わりにあたしが生き返ったのだ。長い長い一瞬の後、あたしの恋は終わった。

暗転

男と？の会話

？ ほらほら、手伝ってくださいよ。

男 ん？

？ あなたが準備してたもの倉庫から出すんです。

男 なんて？

？ なんてって、言ったたでしょう、『返事としてとる』って。千九百年も置いてたんだからホコリとか溜まっているんですよ。いざと

いう時動かなかったらどうするんですか？

男 ああ、そのこと？ それなら中止。

？ え？

男 上の父さん達に連絡しておいて。今回はやる気がないのでパスしますって。

？ そんなあ。

男 今回はやんないよ。片づけといてね。

？ ちよっと、そんなのアリなんですか？

男 いいじゃん、世紀末はあと百年後にもあるんだし、延期延期

？ あなたは自分の立場というものが……。

男 もう、ゆとりがないなあ。本でも読んだら。

男本を渡して退場

？ ……ということは、あと百年お世話しなくちゃいけないんですかあ？ ……僕は結局真昼の国へと帰って来た。夜中の国は誰もい

なくなり、帰ってくる様子もなかったからだ。いや、夜中の国ではもうない。ロケットからこぼれた太陽は一日の半分だけ夜中の国から月を追い出す。夜中の闇に逃げていた人達はそれで暮らせなくなったのだ。僕は思う。男はやはり希望を捨てられなかったのだと。じゃあ、僕はどうなんだろう？ あの時僕は一瞬でも闇に身を任せた。あの時偶然にロケットが落ちなかったら……。

登校中のあきらが現われる。

？ そこで、僕は思い直す。僕達はどうせ何かの偶然や、誰か巨大なものに生きている。だからせめてこの手で成せることを、胸を張ってするしかないのだと。そう思っていたら真昼の国の太陽が陰ってきた。夜中の国を追い出された月が居場所を求めてやってきたのだ。そして、真昼の国に初めての夜がやってくる。

あきら (晴れ晴れと明るい表情で) そして、また朝がやってくる！

<幕>